

災害とジェンダーに関する人材育成プログラム 事業報告書

平成27年6月

公益財団法人せんだい男女共同参画財団

目 次

I 事業経過	1 ページ
II 平成26年度実施事業	2
III 平成27年度実施事業	3
IV 事業の成果	4
別紙 事業報告書	5

本事業は、男女共同参画と災害・復興ネットワークおよび公益財団法人日本女性学習財団の委託により、カタール フレンド基金の助成を受けて実施したものです。



I 事業経過

本事業は、男女共同参画と災害・復興ネットワーク及び公益財団法人日本女性学習財団の委託により、カターン フレンド基金の助成を受けて実施されたものであり、実施に当たっては事業検討委員会を組織して事業の内容・方法を検討した。

1. 事業検討委員会

(1) 委員

船橋邦子（男女共同参画と災害・復興ネットワーク（JWNDRR））
池田恵子（減災と男女共同参画研修推進センター 共同代表
／静岡大学教育学部教授／同大学防災総合センター兼任教員）
木須八重子（（公財）せんだい男女共同参画財団理事長）
加藤志生子（　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　エル・パーク仙台館長）
柴田聡史（　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　総務企画課長）

(2) 会議

第1回（平成26年12月5日 日本女子会館）
事業計画について
第2回（平成27年2月16日 エル・ソーラ仙台）
①平成26年度事業の総括
②平成27年度事業の実施について
第3回（平成27年6月25日 エル・ソーラ仙台）
平成27年度事業の総括

2. 平成26年度実施事業

(1) 英語版トレーニングプログラム作成

仙台版防災ワークショップ『みんなのための避難所作り』
Sendai Workshop on Disaster Risk Reduction “Shelters for Everyone”

(2) 英語版資料作成

関連ウェブページ翻訳
『せんだい男女共同参画財団の被災女性支援』
**Support Provided by the Sendai Gender Equal Opportunity Foundation
for Women Affected by the Great East Japan Earthquake**

3. 平成27年度実施事業

(1) せんだい防災プロジェクトチームの活動の振り返り

（平成27年5月29日 エル・ソーラ仙台）

(2) 仙台版防災ワークショップ『みんなのための避難所作り』ファシリテーター養成講座

（平成27年5月30日 エル・ソーラ仙台）

II 平成26年度実施事業

当財団が東日本大震災後に行った取組みについて発信することにより、被災地の経験が世界における減災に貢献することを期して、次の事業を行った。

1. 英語版トレーニングプログラム作成

仙台版防災ワークショップ『みんなのための避難所作り』

Sendai Workshop on Disaster Risk Reduction “Shelters for Everyone”

(1) 概要

当財団が平成26年3月に作成した仙台版防災ワークショップ『みんなのための避難所作り』に基づき、英語版のテキストを作成した。

日本語版は、避難経験者への取材を踏まえ、避難所で女性が経験した困難を題材として、イラストを用いたカードも収録し、手軽にワークショップを開くことのできるキットとして作成されたものである。

英語版の冊子は、平成27年3月に仙台で開催された第3回国連防災世界会議のパブリック・フォーラム会場において、海外からの参加者等に配布した。

(2) 仕様等

A4版48ページ、カラー印刷。300部作成。

PDFファイルは、当財団のホームページからダウンロード可能。

2. 英語版資料作成

関連ウェブページ翻訳

『せんだい男女共同参画財団の被災女性支援』

Support Provided by the Sendai Gender Equal Opportunity Foundation
for Women Affected by the Great East Japan Earthquake

Ⅲ 平成27年度実施事業

当財団が東日本大震災の経験を踏まえて平成25年度から継続して開催してきた地域防災ワークショップについて、ファシリテーターとして参加した「せんだい防災プロジェクトチーム」のメンバーによる活動の振り返りを行うとともに、地域においてワークショップを展開するファシリテーターを新たに養成する講座を開催した。

1. せんだい防災プロジェクトチームの活動の振り返り

平成25年6月から始まった、せんだい防災プロジェクトチームの活動について、メンバーが振り返るとともに、今後の活動に向けた方向性を考えた。

(1) 実施日時・場所

平成27年5月29日（金）13:30～15:00

仙台市男女共同参画推進センター エル・ソーラ仙台 大研修室

(2) 講師 池田 恵子 氏（減災と男女共同参画研修推進センター 共同代表 ／静岡大学教育学部教授／同大学防災総合センター兼任教員）

(3) 参加者 せんだい防災プロジェクトチーム（5名）

(4) 実施状況 別紙実施報告書のとおり

2. 仙台版防災ワークショップ『みんなのための避難所作り』ファシリテーター養成講座

地域における女性リーダー育成に向けて、ワークショップ・プログラムをより多くの地域で実施するため、現メンバーに加えて新たにファシリテーターを養成する講座を開催した。

(1) 実施日時・場所

平成27年5月30日（土）10:00～16:00

仙台市男女共同参画推進センター エル・ソーラ仙台 大研修室

(2) 講師 池田 恵子 氏（減災と男女共同参画研修推進センター 共同代表 ／静岡大学教育学部教授／同大防災総合センター兼任教員）

(3) ワークショップ実施 せんだい防災プロジェクトチーム

(4) 参加者 一般参加者28名、オブザーバー13名

(5) 実施状況 別紙実施報告書のとおり

IV 事業の成果

カタール・フレンド基金の支援に基づく本事業により、草の根レベルでのジェンダー視点の定着に向けて、対話を通じた新しいアプローチの有効性が確認された。これは、当財団がノルウェー政府の支援により平成 25 年度に開発したプログラムを、さらに前進させる契機となった。

また、当財団の使命である男女共同参画推進を市民の活動との協働によって遂行していくうえでの、当財団独自の役割を再確認することができた。

(1) 英文による文書を作成し、第 3 回国連防災世界会議のパブリック・フォーラム及び当財団ウェブサイトを通じて発信することにより、被災地の経験を世界に伝えることができた。特に、「仙台版防災ワークショップ『みんなのための避難所作り』』について、今後のバージョンアップを含め、さらに取り組みを進めるための契機となった。このプログラムの推進を通じて、災害における女性の困難と、その解決のための女性の参画の必要性についての認識が広がることが期待される。

(2) せんだい防災プロジェクトチームの活動の振り返りを通じて、各メンバーが自分の成長を確認することができ、さらに活動を推進する上での課題を共有し、その克服の方向性を得ることができた。当財団としても、地域の女性リーダー育成における、ファシリテーションの経験の有効性を確認することができた。

(3) ファシリテーター養成講座の開催について、次の成果が確認された。

- ・事前の広報により、意欲をもった十分な参加者が得られ、そのバックグラウンドや地域も広がった。
- ・せんだい防災プロジェクトチーム及び各メンバーの成長が確認できた。
- ・講師の配慮により、基礎的な知識及びファシリテーションのスキルのみならず、ワークショップにおける人間関係の構築のための適切な態度も伝えることができた。
- ・地域の男女共同参画の推進における当財団の役割として、市民活動を促進し、その環境整備のため行政、地域団体等に積極的にアプローチすることの必要性を再認識することができた。

実施報告書（１）

事業名	せんだい防災プロジェクトチームの活動の振り返り
趣旨	平成 25 年 6 月から始まった、せんだい防災プロジェクトチームの活動について、メンバーが振り返るとともに、今後の活動に向けた方向性を考える。
実施日時	平成 27 年 5 月 29 日（金）13:30～15:00
会場	仙台市男女共同参画推進センター エル・ソーラ仙台 大研修室
主催	公益財団法人せんだい男女共同参画財団
助成	カタール・フレンド基金 助成事業/ 災害とジェンダーに関する人材育成プログラム
講師	池田 恵子 氏 減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表/ 静岡大学教育学部教授/同大学防災総合センター兼任教員
参加者	せんだい防災プロジェクトチーム（5 名）
内容	<p>13 : 30 メンバーとして活動した感想を 1 人ずつ述べる (40 分) (個人としての成果、地域への働きかけの成果・課題など) 〈メンバーからの発言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通じ、今まで出会わなかった人と会うことができた。 ・今までよりも積極的に活動できるようになった。自信をもつことができた。 ・ワークショップに参加した人には自分の伝えたいことを伝えることができたが、まだ参加していない人に伝えたい。 ・もっと若いお母さんたちにもワークショップに参加してほしい。 ・深刻な被害を受けた人が体験を語ると、その体験談に終始してしまう。1 人の人がずっと話さないよう、声掛けが必要。 ・避難所についての認識は一人ひとり違うので、冒頭で状況設定を伝えることが大切。 ・ワークショップは、地域で実施することに意味があるが、自分の住んでいる地域で実施に向けた働きかけを行うのは難しい。 ・防災に関する様々な講座や取り組みがある中で、このワークショップが防災につながることをどう PR していくかが課題。

<p>(内容)</p>	<p>14 : 10 もう一步地域に近づくための分析 (70分) ①どんな人にメッセージを届けたいか？ どんな人にワークショップに参加してもらいたいか？ →町内会役員と地域住民、民生委員、学校の先生、働いている男女、 外国人など</p> <p> ②これらの人々につながる「窓口」は？ →町内会、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、児童館など</p> <p> (以下では、特に「町内会」について分析した。)</p> <p> ③「窓口」とつながる機会や課題は？ →機会：班長会や防災訓練、子ども会のお祭り等 課題：町内会の地域差や風通しの悪さ、自分の住んでいる地域 に働きかけることの難しさ、若い世代の参加の促進</p> <p> ④「窓口」につながるために、誰にどのように働きかけていくと良い か？ →連合町内会長への働きかけを継続すると同時に、女性防災ネット ワークや仙台市地域防災リーダー（SBL）、市の消防局、危機管 理室を通じて広めていく。</p>
<p>事業効果</p>	<p>各メンバーから、2年間の活動の成果として個人の成長が得られたことや、防災ワークショップを地域へ広げていく上での課題などが挙げられた。地域への働きかけによる成果については、メンバーから発言が出にくかったが、講師から「防災ワークショップを通して1つの課題について参加者が全員で話し合うこと自体に意義がある」とフィードバックしていただき、チームの活動が地域に及ぼした影響を確認することができた。また、防災ワークショップの地域での実施が難しいという課題に対し、どのようにしたら参加してほしい人々に働きかけることができるかを分析した。対象毎にどのような「窓口」となる団体や組織があるか、そして、その「窓口」とつながる機会やアプローチ方法を考えることにより、今後の活動の方向性がある程度見えてきたため、メンバーが主体性を持って活動していく意欲を高めることができた。今後も引き続き窓口について分析を行い、誰にどのように働きかけていけば良いか具体的に考え、地域での活動を広げていく。</p>

実施報告書（２）

事業名	仙台版防災ワークショップ『みんなのための避難所作り』 ファシリテーター養成講座
趣旨	地域における女性リーダー育成に向けて、ワークショップ・プログラムをより多くの地域で実施するため、現メンバーに加えて新たにファシリテーターを養成する。
実施日時	平成 27 年 5 月 30 日（土）10:00～16:00
会場	仙台市男女共同参画推進センター エル・ソーラ仙台 大研修室
主催	公益財団法人せんだい男女共同参画財団
助成	カタール・フレンド基金 助成事業/ 災害とジェンダーに関する人材育成プログラム
講師	池田 恵子 氏 減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表/ 静岡大学教育学部教授/同大防災総合センター兼任教員
ワークショップ° 実施	せんだい防災プロジェクトチーム
参加者	一般参加者 28 名（申込数 31 名） 内訳：市内の市民センター職員／柴田町の婦人防火クラブ及び民生委員／市内の町内会・自治会／仙台市地域防災リーダー（SBL）／女性防災リーダーネットワーク／市内の婦人防火クラブ／NPO・市民活動団体／学校関係者 ほか オブザーバー13 名 内訳：公益財団法人日本女性学習財団／独立行政法人国際協力機構／仙台市消防局 予防課／復興庁男女共同参画班／柴田町男女共同参画担当課／せんだい男女共同参画財団職員
テキスト	①「男女共同参画・多様性配慮の視点で学ぶ防災ワークブック 地域・支援団体で使える！ワークショップ教材 8」（減災と男女共同参画 研修推進センター） ②「仙台版防災ワークショップ『みんなのための避難所作り』」（公益財団法人せんだい男女共同参画財団）

<p>プログラム</p>	<p>10：00（15分） はじめに： 自己紹介（グループごとに1人1分ずつ）</p> <p>10：15（50分） 講話：基礎知識 性別・立場で異なる被災経験と対策の方向性</p> <p>11：05（55分） 防災ワークショップの手法紹介：要援護者等の支援について考えるワークショップ ほかに</p> <p>12：00（60分） 昼休み</p> <p>13：00（80分） 体験：仙台版防災ワークショップ『みんなのための避難所作り』 …概要説明及びワークショップの一部体験</p> <p>14：20（10分） 休憩</p> <p>14：30（60分） 地域でのリソース分析：研修・講座を連携のきっかけに！</p> <p>15：30（20分） 1日の振り返り、まとめ、質疑応答</p> <p>15：40（5分） 仙台版防災ワークショップ『みんなのための避難所作り』ファシリテーターの呼びかけ</p> <p>15：45（15分） アンケート記入</p>
<p>事業効果</p>	<p>講話では、性別や立場によって異なる被災経験と対策の方向性について学び、さらに要援護者の立場に立って被災時に必要な支援について考えることで、災害時における多様性配慮の視点について参加者の理解を深められた。</p> <p>また、仙台版防災ワークショップ『みんなのための避難所作り』の体験や、地域で連携できる団体のリソース分析等の実践的なワークを通じて、「様々な立場の人が集まって話し合いを行うことで、多様な意見が出ることを実感した」「避難所運営には多様な視点が大切だと気づいた」「『平常時に出来ないことは、災害時にも出来ない』と痛感した」「地域における多様性や、様々な関係者との連携の必要性について認識が深められた」といった発言を参加者から聞くことができた。</p> <p>参加者のほとんどは、自身の地域やフィールドで防災ワークショップを役立てたいという目的を持って参加しており、学びを地域へ持ち帰ることで、男女共同参画の視点が地域にも広がり、定着していくことが期待できる。さらに、参加者の中から新たなメンバーがせんだい防災プロジェクトチームに加わり、チームのこれからの活動の拡充が見込まれる。</p>